

## 特別法要並びに宝物館建設に向けて

総 務 真 置 和 徳

令和最初のお七夜報恩講はおかげさまでお天気にも恵まれ、若い家族づれの参詣も多く、昨年以上の賑やかな法会となりました。ご法中はじめ関係者のご厚情、誠に有り難く改めて御礼申し上げます。次第です。

一方詳しく申し上げるまでもなく、宗門体制にかかわる本質的な問題は残念ながら本年まで持ち越したくなりました。健全な透明感のある宗門運営を目指し、内局一同皆さまのご理解とお智慧をいただきながら一日も早い解決に向けて注力していく所存です。

さて、三年後の令和五年五月にお迎えます特別法要、親鸞聖人御誕生八百五十年奉賛法会はじめ立教開宗八百年・中興真慧上人五百年忌・聖徳太子千四百年忌・以上四法会の基本テーマは

「弥陀のよび声『なもあみだぶつ』を聞いてゆこう」です。

不完全な命を生きる私たちに「あなたのことが心配で今ここに来ているよ」という弥陀のよび声が私の声となって私を励まし、心の闇を照らしてくださいませ。

私たちの言動はいつでも・どこでも如来さまに見抜かれ、見られている存在です。

私たち宗門人は社会からだけではなく、如来さんから見られている（監視されているのではなく）ことを常に自覚しながらの生活態度がいよいよ求められる時代ではないでしょうか。

如来の名をよぶことは如来のよび声を聞くこと。

お念仏を申すことの意味を共に確かめたい、その願いが今回のテーマとなりました。

「一人旅路はさせぬ親さま　なもあみだぶつ」の親心、如来の作願を憶念しつつ悲喜こもごもの人生を精一杯歩まさせていただきます。

私ども一般寺院の現場では後継者問題をはじめ建前だけでは済まない難問が山積していることと存じますが、大切なお念仏相続の為に特別法要・宝物館建設記念事業の円成に向けて物心両面の支援ご協力を伏してお願ひする次第です。

宗 達

宗 達 第一一三九号

法主殿来る令和二年二月十六日午後一時三十分より真宗高田派専修寺名古屋別院報恩講に御親修御親教相成  
る

令和二年一月二十二日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 達 第一一四〇号

法主殿来る令和二年三月二十日讚佛会に御親教相成る  
令和二年一月二十九日

法主鈴印

宗務総長 大僧都 増 田 修 誠

宗 告

宗 告 第一〇八一号

お裏方来る令和二年四月十九日真宗高田派専修寺北海道別院釈尊花祭り女性の集いに御親示相成る

令和二年一月二十三日

宗務総長	大僧都	増	田	修	徳
総務	中僧都	藤	谷	知	良
総務	中僧都	真	置	和	徳

宗 告 第一〇八二号

来る令和二年三月十七日より同二十三日まで讚佛会執行相成る

令和二年一月二十九日

宗務総長	大僧都	増	田	修	徳
総務	中僧都	藤	谷	知	良
総務	中僧都	真	置	和	徳

宗 告 第一〇八三号

来る令和二年四月六日より同十一日まで千部法会執行相成る

一、新加入者 六日、七日、八日

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和二年一月二十九日

宗務総長	総務	総務
大僧都	中僧都	中僧都
増藤	真置	真置
田谷	和知	和知
修徳	徳良	徳良

宗 告 第一〇八四号

来る令和二年四月六日 内々佛殿永代経執行相成る

令和二年一月二十九日

宗務総長	総務	総務
大僧都	中僧都	中僧都
増藤	真置	真置
田谷	和知	和知
修徳	徳良	徳良

宗 告 第一〇八五号

来る令和二年四月九日・十日十万人講法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和二年一月二十九日

宗務総長

総 務

総 務

大僧都

中僧都

中僧都

増

藤

真

田

谷

置

修

知

和

誠

良

徳

宗 告 第一〇八六号

来る令和二年四月十一日午前十一時より戦没者追弔法会執行相成る

一、参勤者 一般寺院

一、衣 体 色衣、紋章五条袈裟、差袴着用

令和二年一月二十九日

宗務総長

総 務

総 務

大僧都

中僧都

中僧都

増

藤

真

田

谷

置

修

知

和

誠

良

徳

宗 告 第一〇八七号

来る令和二年五月二十一日午前十一時三十分より宗祖降誕会執行相成る  
令和二年一月二十九日

宗務総長

総 務

総 務

大僧都

中僧都

中僧都

増

藤

真

田

谷

置

修

知

和

誠

良

徳

宗 告 第一〇八八号

来る令和二年六月七日第五十六回高田派婦人連合大会執行相成る  
令和二年一月二十九日

宗務総長

総 務

総 務

大僧都

中僧都

中僧都

増

藤

真

田

谷

置

修

知

和

誠

良

徳

任 免

令和二年一月六日

威儀視察を命ずる

仙養寺住職

長松 光史

令和二年一月三十一日

依請解其職

威儀視察

齋藤 浄光

令和二年二月一日

維那見習いを命ずる

浄光寺住職

佐々木裕智

組長交代

令和元年十二月三十一日

依請解其職 三重第二十六組組長

中山 弘之

令和二年一月一日

三重第二十六組組長命ずる

海念寺住職

広海 玄勝

住職拝命

令和元年十二月十日

三重県津市大里窪田町

西源寺衆徒

國府谷盛栄

補 西源寺住職・任

西源寺代表役員

三重県鈴鹿市高岡町

念聲寺衆徒

坂 良徹

補 念聲寺住職・任

念聲寺代表役員

三重県津市河芸町

満流寺衆徒

笠井 珠光

補 満流寺住職・任

満流寺代表役員

依請解其職

満流寺住職代務者

玉置 継雄

三重県津市一志町

光臺寺副住職

高野 妙薫

補 光臺寺住職・任

光臺寺代表役員

依請解其職

光臺寺住職代務者

藤澤 眞純



住職代務者

令和元年十月十日

三重県鈴鹿市三日市

壽福院住職

眞岡 慶明

三重県鈴鹿市野辺

補 法林寺住職代務者・任 法林寺代表役員代務者

依請解其職

法林寺住職代務者

眞岡 慶光

令和二年一月二十三日

三重県多気郡多気町

明通寺住職

佐波 真教

三重県松阪市豊原町

補 願證寺住職代務者・任 願證寺代表役員代務者

得度

令和元年十二月十日

三重県龜山市東町

心月院 妙理 准上座格二等

福泉寺衆徒

佐々木理子

三重県松阪市肥留町

道諦院 和誉 老分一等

金剛寺衆徒

玉置 和誉

布教任命

修正会御緋御書(日中)

一・一

権中僧都

水沼 秀明

修正会

一・二

晨朝

権少僧都

眞置 信海

一・三

日中

中僧都

藤谷 知良

一・三

晨朝

少僧都

千草 篤昭

日中

中僧都

眞置 和徳

一月御影堂常在説教（晨朝）

一・四	律 師	隆 妙灑
一・五	中僧都	青木 義成
一・六	権中僧都	里榮 秀教
一・七	権中僧都	中村 宣成
一・八	権中僧都	藤田 正知
一・九	権大僧都	戸田 栄信
一・一七	少僧都	岡 知道
一・一八	律 師	隆 妙灑
一・一九	少僧都	青木 妙法
一・二〇	律 師	若林 妙百
一・二一	大律師	北畠 大道
一・二二	権中僧都	田中 明誠
一・二三	中僧都	青木 義成
一・二四	権中僧都	安藤 章仁
一・二五	権大僧都	東雲 正乘
一・二六	大律師	高島 光憲
一・二七、二八	権大僧都	浦井 宗司
一・二九	権中僧都	中村 宣成
一・三〇	少僧都	上田 英典
一・三一	律 師	田中 唯聴

一月御影堂常在説教（逮夜・日中）

二月御影堂常在説教（晨朝）

一・七	逮夜	律 師	北畠 心淳
一・八	日中	権少僧都	真置 信海
二・一		少僧都	藤澤 真樹
二・二		権大僧都	戸田 栄信
二・三		権中僧都	藤田 正知
二・四		権中僧都	田中 明誠
二・五		律 師	古芝 智泉
二・六		権少僧都	真置 信海
二・七		中僧都	佐藤 弘道
二・八		律 師	山中 久行
二・九		律 師	北畠 心淳
二・一〇		権中僧都	里榮 秀教
二・一一		権中僧都	田中 唯聴
二・一二		権中僧都	中村 宣成
二・一三		権中僧都	田中 明誠
二・一四		権中僧都	安藤 章仁
二・一五		大律師	北畠 大道
二・一六		中僧都	青木 義成
二・一七		少僧都	岡 知道

二・一八	權中僧都	鷲山	了悟
二・一九	律師	水沼	碧水
二・二〇	權中僧都	中村	宜成
二・二一	律師	若林	妙百
二・二二	律師	隆	妙灑
二・二三	權少僧都	真置	信海
二・二四、二五	權大僧都	浦井	宗司
二・二六	權中僧都	梅林	清香
二・二七	少僧都	上田	英典
二・二八	律師	隆	妙灑
二・二九	大律師	高島	光憲

二月御影堂常在説教(速夜・日中)

二・七	速夜	權中僧都	村上	英俊
二・八	日中	大律師	北畠	大道
二・九	速夜	中僧都	青木	義成
二・一〇	日中	少僧都	山中	真論
二・一五	速夜	權少僧都	高藤	英光
二・一六	日中	權少僧都	高藤	英光

高田慈光院 月例法会

一・二六  
二・一〇、一六、二六

報徳園 月例法会

一・一五  
二・一五

權少僧都 真置  
權大僧都 浦井 宗司  
信海

權少僧都 真置  
權少僧都 高藤 英光  
信海



敬 弔

次の方々が御往生なさいました。謹んで敬弔の意を表します。

令和元年

六・二十九 三重県津市木造町

西念寺前住職

正井 法裕

贈 権少僧都

十二・五 三重県津市一志町

福専寺前坊守

上田 和代

十二・十六 新潟県中魚沼郡津南町

長泉寺住職

柳澤 信良

贈 大律師

十二・二十八 三重県松阪市大黒田町

常寶寺前住職

藤原 光昭

贈 権少僧都

お詫びと訂正

宗報令和元年十二月号（九百二十三号）  
二十頁「高田短期大学 科目等履修生 募集要項」

正

一、設置科目

人生と仏教Ⅰ（仏教学）  
人生と仏教Ⅱ（真宗学）

誤

一、設置科目

仏教学Ⅰ（仏教学）  
仏教学Ⅱ（真宗学）

謹んでお詫びし、訂正致します。

宗門のお知らせ

報恩講懇志芳名

本年度の報恩講（お七夜）例年通り一月九日より十六日御満座まで御執行成り、念仏相続の喜びを十分に味わう事ができました。

ご懇志芳名を左のとおり記載し感謝の意を表します。年に一度のご正忌です。祖徳を偲び来年も懇念をよせられます様お願いします。

本寺専修寺

京都別院

名古屋別院

北海道別院

関東別院

三重第一組西部

智慧光院 玉保院

慈智院

厚源寺

三重第一組東部

成願寺 勝樂寺

浄泉寺

浄運寺

明覚寺 慈光寺

三重第二組甲部東

東海寺

信行寺

長安寺

万年寺

大円寺

善行寺

満願寺

三重第二組甲部西

浄光寺

重願寺

隨宏寺

誓教寺

妙教寺

啓運寺

浄泉寺

三重第二組乙部

法流寺

願正寺

實相寺

長久寺

真楽寺

西源寺

豊久寺

三重第三組

延命寺

浄誓寺

南昌寺

金剛寺

光澤寺

潮音寺

教圓寺

積善寺

深正寺

善徳寺

心覚寺

報恩寺

彰見寺

上宮寺

三重第四組

善休寺

西勝寺

泰應寺

泉光寺

近縁寺

清雲寺

勝鬘寺

慈相寺

三重第五組

法泉寺

光徳寺

仲安寺

圓照寺

浄蓮寺

西方寺

浄現寺

宗門のお知らせ

三重第六組北部

圓福寺 本樂寺

甚國寺 金剛寺

唯称寺

善導寺

三重第十組

清光寺

千福寺

浄芳寺

延寿寺

三重第六組東部

明照寺 法性寺

永福寺 常蓮寺

光輪寺

大誓寺

三重第十一組東部

因誓寺

採蓮寺

善性寺

寶田寺

三重第六組西部

称名寺 萬徳寺

寶積寺 青巖寺

西方寺(中)

西福寺

三重第十一組西部

滿昌寺

西念寺

光福寺

浄明寺

三重第八組

義明寺 田仲寺

常照寺

眞性寺

三重第十二組東部

福専寺

延命寺

浄福寺

光善寺

三縁寺 薬師寺

轉輪寺

迎接寺

三重第十二組西部

来迎寺

来岸寺

本光寺

長盛寺 明通寺

浄福寺

西樂寺

三重第十二組東部

明蹟寺

縁生寺

佛照寺

猷忠寺 本照寺

常樂寺

松仙寺

三重第十二組西部

龍光寺

常照寺

清芳寺

圓浄寺 善福寺

大安寺

涅槃寺

三重第十三組

大乘寺

常照寺

西念寺

三重第九組東部

浄見寺 西蓮寺

照安寺

見立寺

三重第十三組

正福寺

林光寺

澄源寺

普賢寺 西生寺

唯信寺

照安寺

三重第十三組

本法寺

新立寺

光雲寺

浄源寺

宗門のお知らせ

	西性寺								
	三重第十四組								
	長徳寺	光明寺	報国寺	惠日寺	遍照寺	正福寺	本念寺	乘願寺	
	称名寺	正法寺	西林寺	西蓮寺	教安寺	心光寺	西願寺	唯願寺	
	伝福寺	法光寺	松原寺	来照寺	西法寺	願正寺			
	正運寺				三重第十八組				
	三重第十五組				龍泉寺	蓮光寺	正泉寺	善教寺	
	常福寺	光善寺	明林寺	誓正寺	光源寺	崇顕寺	東漸寺	興正寺	
	寶林寺	光圓寺	誓信寺	真善寺	上品寺	成満寺	願誓寺	来教寺	
	清福寺	本覚寺	善性寺	西圓寺	立法寺	聖洞寺	中山寺		
	福泉寺	誓昌院	永信寺	法善寺	三重第十九組甲部				
	西徳寺	幸福寺	西信寺		蓮生寺				
	三重第十六組南部				三重第十九組乙部				
	福萬寺	善照寺	青蓮寺	西生寺	大雲寺	願行寺			
	西願寺	浄国寺	浄福寺		三重第二十組				
	三重第十六組北部				常超院	信最寺	万性寺	正覚寺	
	保智院	海善寺	真念寺	光善寺	栄信寺	法泉寺	浄福寺	大蓮寺	
	安性寺	光輪寺			西唱寺	顕正寺	放光寺	西光寺	
	三重第十七組北部				欣浄寺	誓元寺	誓覚寺		
	玉泉寺	一乗寺			三重第二十一組東部				
			法雲寺	西岸寺	信福寺	正行寺	法林寺	真永寺	

宗門のお知らせ

養元寺	三誓寺	高山寺	宣隆寺	三重第二十四組甲部西	正樂寺	要泉寺	大音寺	誓覚寺
正源寺				三重第二十四組乙部	成泉寺	清涼寺	了性寺	蓮性寺
三重第二十一組西部	光明寺	勝光寺	本立寺	林昌寺	西蓮寺	法專寺		
本浄寺	光福寺	念聲寺	崇徳寺	三重第二十五組南部	唯信寺	西方寺	最勝寺	信光寺
宝珠寺				三重第二十五組北部	正法寺	満流寺		
三重第二十二組西部	聖徳寺	金光寺	正信寺	欣念寺	三重第二十五組北部	青龍寺	林昌寺	正因寺
蓮花寺				專照寺	花山寺	井福寺	本覚寺	正圓寺
三重第二十二組東部	弘善寺	西運寺	佛教寺	台蓮寺	三重第二十六組	常念寺	願證寺	眞臺寺
寶祥寺	心海寺	見潮寺			西林寺	光明寺	海念寺	常寶寺
三重第二十三組	称名寺	願行寺	宗休寺	善昌寺	西林寺	蓮性寺	西念寺	光蓮寺
	隨願寺	法林寺	心覚寺	隨念寺	妙華寺	浄徳寺	西向寺	
	西光寺	撰取院	壽福院	良珠院	三重第二十七組			
	常超院				西林寺	蓮性寺	西念寺	
三重第二十四組甲部東	本照寺	正念寺	真昌寺	慈教寺	三重第二十八組	光明寺	正蓮寺	栄松寺
								本念寺



宗門のお知らせ

直轄

大仙寺 林溪寺

愛知第一組

至誠院 久遠寺

愛知第二組

教津坊 崇願寺

愛知第三組

万福寺 浄泉寺

常德寺 法性寺

愛知第四組

榮久寺 蓮教寺

教圓寺 万徳寺

愛知第五組

蓮珠寺 祐傳寺

愛知第六組

東泉寺 教聖寺

徳林寺 善明寺

愛知第七組

聖眼寺 真光寺

願成寺 西藏寺

西藏寺

養樹寺

大阪

一乗寺

正覚寺

聖賢寺

大乘寺

愛知第八組

浄光寺

西光寺

光明寺

東仙寺

愛知第九組

西蓮寺

貞印寺

妙源寺

松林寺(名喜)

松林寺(豊)

静岡

光福寺

神奈川

常専寺

甚行寺

東京

壽林寺

永福寺

南松寺

林柔寺

願信寺

栃木

遍照寺

岐阜

善教寺

京都

安立寺

大仙寺

東光寺

福井第二組

大願寺

稱名寺(疊) 寶幢寺

稱名寺(塙)

真浄寺

北海道

浄曉寺

長正寺

高山寺

専覚寺

専誠寺

眞宗寺

弘専寺

誠満寺

真高寺

莊嚴寺

浄光寺

聖賢寺

願勝寺

七夜坊守会報告

今年も一月十日に開催されたお七夜坊守会には、

二十名の参加をいただき、盛会となりました。

はじめに清水谷正尊先生の講義を聴き、その後速夜参詣となり、お裏方さまと共にひとりづつ中陣にて献花と焼香をいたしました。大勢でお勤めする文類偈が大きな御影堂に響き渡りました。

責任役員会報告

一月十三日(月)御影堂にてお日中に参詣しお説教を聴聞後、法主殿、前法主殿御臨席のもと開催されました。

各寺院の責任役員三百九十六名参加の中、法主殿のお言葉をいただき、宗務総長挨拶、本山現状報告、特別法要事務局長挨拶並び資料説明を行いました。

お七夜婦人連合会報告

一月十二日(日)お七夜婦人連合会が約二百名の参詣のもと御影堂に於いて開催されました。

お日中参拝、戸田恵信師のお説教聴聞のあと、法主殿・お裏方様ご臨席のもと、婦人連合会代表による献花・献灯・献香から始まり、勤行(重誓偈・短念仏廻向文)に続いて法主殿からお言葉を、

婦人連合会会長のお裏方様よりご挨拶をいただきました。続いて増田宗務総長の挨拶で式典の部を終了しました。

引き続き津市善休寺住職 千草篤昭師の講演「いのちの尊厳」を聴聞し、お七夜婦人連合会を終了いたしました。

式典には次の方々にご協力いただきました。

(敬称略)

献花 橘 登志子 法光寺仏教婦人会

松田 温子 法光寺仏教婦人会

献灯 森本 満子 欣浄寺仏教婦人会

北端 一子 満願寺満月会

献香 岡田 律子 法光寺仏教婦人会

●お七夜婦人連合会初夜参詣

一月十五日(水)に恒例のお七夜婦人連合会初夜参詣が行われました。

バス六台、百五十人のお同行が三重県各地からつどいました。婦人連合会以外の参拝者も加わって、初夜が始まる午後四時三十分には約三百人が

御影堂に集まりました。

初夜勤行では法主殿が報恩講式の初段・二段・三段を御親読されました。続いて津市長徳寺住職 高林亮英師の法話を聴聞して午後七時前に法会が終了しました。

今年のお七夜は暖かい日が続き、御影堂を後にしてバスに向かう人たちからは笑顔が溢れていました。

お七夜子ども大会報告

一月十二日(日)、「お七夜子ども大会」が開催されました。八十名を超える子どもたちの参加があり、会場の宗務院第一会議室も子どもたちの元気な声でいっぱいになりました。

大会は、子どもたちによる献花・献灯・献香から始まり、みんなで重誓偈のお勤めをしたあと、法主殿よりお言葉をいただきました。式典の最後には、高田保育園の先生のピアノ伴奏に合わせて、

元気いっぱい「流れゆく雲に」を合唱しました。表彰の部では、「お七夜献書展」の表彰が行われ、七四二点の出品作品の中から高田本山賞をはじめとする各賞を受賞した子どもたちへ表彰状と賞品が授与されました。

そのあと、アラモちゃんと高田高等学校仏青インターアクト部の生徒に協力してもらい、みんなでゲームをして親子で楽しんでいただきました。

### 高田派青年会活動報告

#### ●お七夜青年会報告

一月十一日(土)にお七夜青年会を開催致しました。開会式にて青年会会長である法主殿よりお言葉を賜り、その後、講義を聴講し、逮夜及び初夜への出勤を行いました。

本年の講義は、「寺院の活動くお寺の取り組み紹介」というテーマで、久遠寺副住職の高山信雄師に御自坊での取り組みをお話いただきました

た。お寺との縁づくりのために、従来の布教活動のみならず多様化するニーズに合わせた様々な活動を紹介していただきました。

#### ●青年の集い福島大会案内

令和二年(二〇二〇)年六月二十七日(土)二十八日(日)の二日間、高田派青年の集い福島大会を開催いたします。皆様のご参加をお待ちしています。

大会テーマ 会津地方の太子信仰と高田派  
東日本大震災復興のいま

日	程
一日目	南会津 南泉寺参拝 南会津 自源寺参拝
二日目	大谷派原町別院参拝 諸戸漁港視察 復興商店街視察

(お問い合わせ)

高田本山宗務院内  
高田派青年会事務局まで

お七夜新成人の集い

本年も成人の日にあわせてお七夜新成人のつどいを開催いたしました。参加者は二名と少なかつたのですが、地元の成人式が前日だったこともあり、成人の日当日の行事ということでテレビ局の取材もありました。

例年のとおり、真置総務よりお祝いの言葉をいいただき、御影堂での中陣参詣をいたしました。その後、通常非公開の桐鳳書院において法主殿からお言葉をいただき、記念撮影をいたしました。

中学生教化合宿参加者

募集のお知らせ

毎年好評いただいております、中学生教化合宿の参加者を募集いたします。寺族のみならずお同

行のお子さまでもご参加いただけます。

開催日時は令和二年三月三十日から四月一日の二泊三日

参加対象は四月一日に中学生になる現小学六年生から三月三十一日に中学卒業となる現中学三年生です。

参加費用は二二・〇〇〇円となります。

詳しくは同封のチラシをご覧ください。高田派のふるさと本寺をより多くの人に知ってもらいためにも、どうぞみなさまにご案内ください。

同和問題に取り組む会 報告

平成三十一年一月〜令和元年十二月

定例会―一月二十九日・二月十八日・

三月十一日・四月十五日・五月十三日・

六月十七日・七月二十四日・九月十三日・

十月二十八日・十一月二十七日・十二月十二日

- ・教団内の人権意識を高める啓発、施策
- ・機関誌『同朋』

NO十二号の編集、発刊(十二月)

- ・人権啓発、部落解放研究集会

(二月二日県総合文化センター)

- ・三重同宗連後期研修会

(三月十三日 水平社博物館

・奈良朝鮮学園)

- ・三重同宗連総会・前期研修会

(七月八日 高田本山宗務院)

- ・真宗教団連合中央研修会

(九月十日～十一日

本願寺派聞法会館)

- ・全国人権同和教育研究大会

(十一月三十日～十二月一日)

サオリーナ・メッセ・高田会館 他

清掃奉仕

日頃より、本山奉仕団の方々には、山内の清掃等で御奉仕をいただき有難うございます。

今後とも愛山護法の精神のもと、ご協力のほどよろしく願いたします。

二〇一九年に御奉仕いただきました御寺院・団体は以下の通りです。

(三月)

泉光寺 西勝寺 慈相寺 勝鬘寺 清雲寺  
泰應寺 近縁寺 迎接寺

(四月)

願成寺 法泉寺 光徳寺 仲安寺 浄蓮寺

(五月)

法林寺 みかんの里 西方寺 圓福寺 唯称寺

宗門のお知らせ

(六月)

ふれ合い長寿 本楽寺 善導寺 甚国寺 金剛寺  
明照寺 近江トラベル 滋賀守山市赤十字

(七月)

法性寺 光輪寺 高田婦人会

(九月)

大誓寺 永福寺 常蓮寺 正福寺

(十月)

称名寺 萬徳寺 西方寺 寶積寺 青巖寺

(十一月)

ふれ合い長寿 信行寺 常照寺 真性寺 西方寺

(十二月)

三縁寺 高田婦人会

本山行事予定

(三月・四月)

三月十七日～二十三日

讚佛会

三月二十三日～四月七日

写生大会

三月三十日～四月一日

中学生教化合宿

四月六日～十一日

千部法会

四月九日～十日

十万人講法会

四月十一日

戦没者追弔法会

四月十九日

花まつり

四月二十九日

興学布教研究大会

特別法要事務局だより

本山では令和5年5月に厳修します特別法要並びに新宝物館建設のためのご懇志をお願いいたしております。まことに勝手ではございますがご懇志につきましては法会前月の令和5年4月末までをお願いいたしたく存じます。また、新宝物館へお名前を刻む関係でご志納の方のお名前につきましては令和4年12月末までに事務局までお知らせいただきたくお願い申し上げます。

このほどご寺院様から要望があり檀信徒様から分割等でご懇志をいただく場合にご寺院様が発行していただく領収証（拝受証）を作成しました。分割だけではなくご懇志をご寺院様でお預かりいただく場合にもお使いいただけます。ご希望のご寺院様にはご寺院名を入れたかたちでお渡しますのでお申し出ください。

_____ 様	No. _____
金額 _____	円
令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日	
_____ キ リ ト リ セ ン _____	
拝受証	
_____ 様	No. _____
金 _____	円
真宗高田派本山専修寺特別法要並びに宝物館建設のご懇志として、上記確かに拝受いたしました。	
令和 ____ 年 ____ 月 ____ 日	
	<input type="radio"/> ○山 <input type="radio"/> ○寺



## 下付金のお知らせ

平成二十五年分院号下付金、及び納骨壇加入下付金を専修寺正味財産に計上いたしました。

(令和元年五月三十一日付)

院号冥加金、及び納骨壇加入冥加金の下付金は納入された年度から、五か年を経過したものは、専修寺正味財産に計上されるため、交付出来ませんのでご注意ください。

詳しくは宗務院財務課までお尋ね下さい。



真宗高田派共済会のご案内

●全寺院対象の共済制度●

真宗高田派共済会運営規程による各種制度

○見舞金

- ・本堂全焼及び全壊 100万円
- ・本堂半焼及び半壊 60万円
- ・庫裏全焼及び全壊 60万円

\* 災害を証明する書類が必要

・境内地並境内建物が災害を被った時は、2万円をお見舞いする  
(追加されました)

\* 被害総額が100万円以上の場合となります

○祝金

- ・本堂新築及び改築 60万円
- ・本堂を除く境内建物の新築および改築 10万円

\* 工事費が1千万円以上の場合となります

\* 高田派代表役員が発行した新築・改築の承認書と  
工事契約書の写しが必要

○香料（住職の死亡から6ヶ月以内に申請のこと）

在任期間により給付金が異なります

- ・住職在任40年以上 50万円
- ・住職在任30年以上40年未満 40万円
- ・住職在任20年以上30年未満 30万円
- ・住職在任10年以上20年未満 20万円
- ・住職在任10年未満 10万円

○住職退職慰労金（退職から6ヶ月以内に申請のこと）

上記死亡の場合を適用する

○真宗教学奨学金（毎年4月末日までに申請のこと）

- ・高等学校生及び真宗各派の専修学院生 月額 2万円 若干名
- ・大学生及び大学院生 月額 4万円 若干名
- 月額 8万円 若干名  
(追加されました)

○奨励金（毎年4月末日までに申請のこと）

共済会が指定した学校学部にて入学したときに

4万円を支給します。

給付及び申請のお問い合わせは、下記の共済会担当までお尋ねください。

真宗高田派共済会 真宗高田派宗務院内

電話 059-232-4171 FAX 059-232-1414

## 人権擁護啓発活動重点項目

- 一、国際時代にふさわしい人権意識を育てよう。
- 一、子どもの人権を守ろう。
- 一、高齢者の人権を尊重しよう。
- 一、病気・部落などによる差別をなくそう。
- 一、障害者の完全参加と平等を実現しよう。

「三重県人権教育基本方針」より抜粋

令和二年二月二十日印刷  
令和二年二月二十日発行

三重県津市一身田町二八一九番地  
電話（〇五九）二三三―四一七一  
<http://www.senjui.or.jp>

真宗高田派本山専修寺

発行所 宗務院

振替〇〇一五〇―一五一九四番

三重県津市一身田町七六五番地

印刷所 相和印刷所

電話（〇五九）二三三―二〇七〇